

週刊 **タバコの正体**

日本では、32万台もの自販機と4万7千店のコンビニでタバコを24時間販売しています。まさに「いつでもどこでもタバコを買える」のです。世界では下図のような警告写真をつけたうえに一箱1000円

以上もする国が主流なのに、どうして日本は、こうもタバコが買いやすくなっているのでしょうか。



ブラジルのタバコ

じつは日本には、タバコの製造及び販売を国が調整する「たばこ事業法」という法律があるのです。

この法律は昭和59年(1984年)に制定されました。読んでもらえばわかりますが、「我が国たばこ産業の健全な発展」を目的にした法律なのです。

たばこ事業法 第1条

この法律は、たばこ専売制度の廃止に伴い、製造たばこに係る租税が財政収入において占める地位等にかんがみ、製造たばこの原料用としての国内産の葉たばこの生産及び買入れ並びに製造たばこの製造及び販売の事業等に関し所要の調整を行うことにより、**我が国たばこ産業の健全な発展を図り、もって財政収入の安定的確保及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。**

世界の国々は、国民の健康を優先して喫煙者を減らそうとしています。つまりタバコが売れないような政策をとっているのに、日本では、たばこ産業と経済の発展を目的とする法律があるのです。

だから、日本では「いつでも、どこでもタバコが買える」ようになっているのかもしれませんが。でもだからといって、「そら、仕方ない」で済ませられるのでしょうか。たばこ産業と国民経済の健全な発展を目指さずことで国民の健康は損なわれていないのでしょうか。

タバコを買わなくても国民経済が健全に発展する日本になるべきですよ。そのために、一生タバコを吸わない君たちの存在は大きな力となるでしょう。

産業デザイン科 奥田 恭久